

MCS税理士法人立川事務所通信

2月号 VOL. 054

MCS税理士法人立川事務所

〒190-0023

立川市柴崎町 3-11-4 千代田生命立川ビル 4階

電話：042-595-7671 F A X：042-528-6949

<http://www.mcs-office.jp> mail.info@mcs-office.jp

相続専用 HP：<http://www.souzokushien110.com/>



いつもお世話になります。新年のあいさつをしたばかりだと思っていたらもう二月。昔から「一月は行く、二月は逃げる、三月は去る」と言われますが、逃げ足の速い二月を追いかけるように時を過ごせば気持ちが焦るばかりです。改めて時間の大切さを全身で感じながらゆったりと構えて暖かい春を待ちたいものですね。

【日本初の所得税】申告額第一位は？】

我が国に所得税が導入されたのは明治二十年で、課税対象は個人所得だけでした。書籍『日本財政論』によると、高額納税者の多くは旧大名や公家などの華族で、上位には旧山口藩主の毛利元徳や旧金沢藩主の前田利嗣、旧熊本藩主の細川護久などの名前がみられます。

そのような中、申告額で第一位となったのは、三菱財閥の基礎を築いた岩崎弥太郎の長男、岩崎久弥で申告額は約70万円でした。第二位は岩崎弥之助（岩崎弥太郎の弟）で約25万円、第三位が毛利元徳の17万円台。

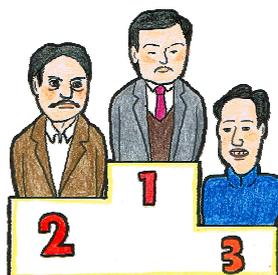
日本資本主義の父といわれた渋沢

栄一が10万円弱の申告額ですか

ら、第一位の申告額がいかに多いかが分かります。

そうなると当時の70万円がどれくらい価値があったのかを知りたいところですが、世の中の仕組み

や人々の暮らしが異なるため正確に換算することはなかなか難しいものがあります。また、物価や賃金水準も年々変化しているのと同じ明治時代でも前半と後半では違いがあります。そのためあくまでも参考としてのお話です。明治三十年頃の小学校の教員や警察官の初任給は月8〜9円くらい、一人前の大工などベテラン技術者で月20円くらいだったようです。このようなことから考えると当時の庶民にとつての1円は、現在の2万円くらいの重みがあったのかもしれない。仮にこれで計算すると当時の70万円は現在の140億円になります。



【方言を使ったアイテムがブーム！】

昨年の流行語大賞にも選ばれた岩手県北三陸地方の方言「じえじえじえ」。今、日本各地の方言を使ったアイテムが密かなブームです。『ラジオ体操第1ご当地版』は津軽弁から鹿児島弁まで10の方言によるラジオ体操が収録され、聞き流すのも楽しいと売上を伸ばしています。北海道や群馬、長崎など、郷土の出来事や生活描写をその地方の言葉で読み上げる『方言かるた』も順調です。方言の持つ素朴さや温かさに癒される一方で、地域文化の継承にも意義がありそうです。



【今月の教えてキーワード：クラウドファンディング】

ある目的や志、アイデアの実現や商品化に向けてネットを通じて不特定多数の人たちから資金を集める行為。

「大衆 (crowd)」と「資金調達 (funding)」からなる造語。資金の見返りに出資者に物やサービスを提供する「購入型」、リターンや見返りが一切ない「寄付型」がある。新事業への期待感や理念理想に共感することが出資の動機となる。出資を募るためのネットサービスを利用すればクレジットカード決済でも出資ができる。

【時は「？」なり】

時間に対する考え方や習慣と年収の関係を調べた調査結果があります。年収 400 万円台の人たちと 1500 万円以上の人たちに、「人生の目的や目標を常に意識している」「仕事の目的や意味を常に考えている」「やりたいことリストを作っている」「グチを言わない」「迷ったら新しい選択肢を選ぶ」などの質問をしたところ、どの設問に対しても「当てはまる」と答えた率が高かったのは年収 1500 万円以上の人たちでした。

目的意識を高く持って常にチャレンジし、失敗してもクヨクヨしないで先に進む。つまり年収の差を生む要因のひとつは「時間」に対する考え方で、「時間」の意識が高い人ほど成功の確率が上がるのかもしれませんが。「お金と時間はどちらが大切か」というのは古くて新しい問いです。際限なく増やしたり貯めたりできて、しかも貸し借りまでできるお金に対して、増やすことも貯めることも貸し借りもできず、一度失うと二度と取り戻せない時間のほうがはるかに大切な資源だというのは、商売をしている人なら常々感じていることでしょう。しかし、「たいていの経営者は、その時間の大半を“きのう”の諸問題に費やしている」(ピーター・ドラッカー)。これが現実かもしれません。

西洋のことわざは「時は“金”なり (Time is money)」ですが、商売上手で知られる華僑の人たちは「時は“命”なり」と言うそうです。これは相手の時間に対しても同じことが言えるでしょう。

例えば商談のために1時間作ってもらうのであれば、商談相手の命の中の1時間分を分けてもらっていると考えのです。商談に15分遅れたら相手の命を15分間ムダにしたこととなります。

何の準備もなしに適当な商談をしたら、相手の命はもちろん自分の命も1時間分のムダ遣いです。

改めて時間の重要性に意識を向けてみたいですね。濃密で意義のある時間を過ごせるかどうかは、商売の成功と共に豊かな人生のためのテーマでしょう。



人に勝つより 自分に勝つ

今を生きる!

先人の言葉

日本の柔道家である嘉納治五郎の言葉。人を蹴落とすのではなく、今よりさらに強い自分になるよう努力を重ねれば、おのずと人より秀でた人間になれるものだ。

【国のない男】

村上春樹など多くの文学者に影響を与えたアメリカを代表する作家カート・ヴォネガットの遺作。含蓄ある文章の中には愛すべき人類へ向けて贈るジョークや鋭い警鐘が詰まっています。この中に人生の道しるべを見出す人も多いようです。

